

研究計画書

研究テーマ 作業する人に寄り添うエージェントの研究

研究動機

作業してて集中できない時や問題に躓き挫折してやめてしまう時がある。
そんな時エージェントを用いて少しでも作業する人を精神的に支えてあげたい。そして作業継続に繋げるサポートがしたい。

ターゲットユーザ 作業をする社会人や学生

使用場面 作業時、作業休憩時

新規性,新奇性 作業中の人へのエージェントの寄り添い方、距離感を見つけること

仮説1 エージェントの作業音が聞こえるだけでもエージェントの存在感が出るのではないかな。

有用性:一緒に作業するエージェントの存在感は音と視覚的どちらが大きいかな、作業に適する存在感はどれほどなのかなを研究することにより作業支援エージェントの人の邪魔にならない作業形態がわかる。

仮説1の設計

入力 カメラ、音声

出力 音声、エージェントの表示

仮説2 作業休憩時に愚痴を聞いて応援するエージェントによって作業時の孤独感軽減につながるのではないかな。

有用性:作業中の愚痴を聞き、応援するエージェントによって作業の孤独感、ストレスが軽減できる。

仮説2の設計

入力 カメラ、音声

出力 音声、エージェントの目などの動き

愚痴インターフェース 休憩時の愚痴がメインとなり、カウンセリングのようにする。また、親しみを持たせる為に方言にし、話を聞くときは視線を合わせる。

カメラから集中度を読み取って下がった時に愚痴を聞き出すために声をエージェントからかける。

1)肯定してほしいの愚痴

共感してほしい、同意してほしいので一緒に愚痴をいう、明確に何への同意かを示す

○○だと思うよね

ほんとそれな

2)聞いてほしいの愚痴

オウム返し式→愚痴の要点を別の言い回しで返す

カウンセリング

集中力落ちた時>1)

休憩が必要な時＞2)

会話の終わり目で応援の言葉を使う。

通常会話、同意要求発話、断定口調発話を文末言葉から判断し、頷き回数変化

自己否定文には同意を明確にせず流す感じで。

共感していることを人に伝わりやすくするために表情をつける。